

# 教育にしのみや

第111号  
 教育にしのみやを発行する会  
 西宮市教育委員会  
 西宮市PTA協議会  
 西宮市教職員組合  
 西宮市立高校教職員組合  
 西宮市校園長会  
 西宮市私立幼稚園連合会  
 西宮市民間保育所協議会  
 神戸新聞社

《問合せ先》  
 西宮市教育委員会教育総務グループ  
 〒662-8567  
 西宮市六湛寺町8番26号  
 ☎ 0798-35-3836  
 Eメール/vo\_k\_soumu@nishi.or.jp  
 協力 神戸新聞社

## 「ネット社会」にまん延する犯罪、トラブル...



情報教育の必要性や現状、今後の課題について、小学校教科等研究会情報部会長を務める甲陽園小学校の太田宗行校長(五)に聞きました。

情報教育は必要なのでしょうか。  
 「インターネットを利用していろいろなチケットの予約をするなど、もうすでに私たちの生活は情報社会の中に入ってしまったままです。こういった情報がどこにあっても、どうやって手に入るのか、知っている人と知らない人では生活が大きく変わってきます。インターネット上の犯罪から身を守るためにも、子どもの頃から最低限の知識は学校で教えておくべきでしょう」

# 将来に備える情報教育

近年、情報社会の進展に伴い、子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。特にパソコンや携帯電話の普及により、子どもたちの間にもインターネットの世界が広がっています。子どもたちが情報メディアを利用する際、有害な情報に触れたり、トラブルに

巻き込まれたりするケースも増えています。こうした中、情報モラルを身につけ、情報手段などを効果的に活用し、高度情報通信社会を主体的に生き抜く実践力を育成することが急務の課題といえます。現状と今後の課題を迫りました。

### 今後の課題は

甲陽園小 太田 宗行校長

これまでの取り組みは「西宮市では、平成十五(二〇〇三)年度に総務省の補助を受けて、市立学校全六十五校を光ファイバーで結んだ。西宮市教育情報ネットワーク(EduNet)を作り出した。各校にはパソコンが四十台ずつ導入されています。インターネット検索のほか、情報の利用方法を学ぶため、ソフトを使ってグラフや地図などを作成できるようにもなっています。また最近では操作方法を教えるだけでなく、情報モラルや、有害情報からどうやって身を守るかなど、情報との付き合い方」の教育にも力を入れました。シミュレーションソフトを使って、掲示板にいたずら書きをされたらどんな気分になるかを試す授業などを行っています。こうした教育は高度情報社会を生き抜くために必要です。子どもたちは「甘い言葉に気をつけなければ、ネット上に載っていることをすぐに信じてはいけません」との姿の見える見えない不特定多数の人とやりとりするインターネットの特性を理解してきているようです。

「子どもたちの中には早くからネットに親しんでいる子もいるようですが、一部にはネットオークションなどもやっている子もいるようです。できる子にはできない子に積極的に教えています。また、自分がやってきたことが本当に危険ではなかったのかと振り返るいい機会になります。授業で共通のことをやれば、子どもたちが話し合え、危険性を理解も深まり、犯罪に巻き込まれるのを防ぐことにつながります」

今後の課題や展望は「まず、教える側の指導力の向上です。教師にも個人差があります。苦手なことは教師も積極的に教えるに。公開授業や研修を通して教師も勉強していく必要があります。また、子どもたちにはインターネットは、情報を集める手段の一つにすぎないということ。それをまとめたり分析したり、自ら情報を組み立てていく力、最終的には身につけてほしいと思っています」

## 教師の指導力向上必要

### PTAアンケート

西宮市PTA協議会は昨年十一月に開催した講演会「もつと知らう！IT時代の子育て」インターネットの危険な落とし穴」の出席者に、携帯電話やパソコンなどについてアンケートをしました。幼稚園から中学三年までに子どもが安全確保、高学年は連絡手段が多くなる。中学生になると「欲しかったから」という回答も。購入時期は

持たせる理由は、小学校低学年は安全確保、高学年は連絡手段が多くなる。中学生になると「欲しかったから」という回答も。購入時期は

中学3年生の39%  
 専用携帯電話所持

### 主に連絡手段

九人が使い方を子どもと約束していました。子どもがインターネットを利用している家庭は全体の53%で、小学校高学年で56%、中学生になると、80%前後です。保護者の96%が有害サイトの存在を認識していました。子どもが有害サイトを見ていることに気づいた人もわずかながらいました。

また中学二、三年の子どもが持っている理由として、有害サイトに



携帯電話やインターネットの功罪について話し合う保護者ら。市教育委員会庁舎

## 有害サイト接続心配 大人が「危険」説明を

### 保護者座談会

子どもたちの情報メディアの利用について市教委青少年補導グループの元田利幸係長を進行役に、小中学校に通う子どもを持つ玉水真也さん(苦楽園中PTA)、富田啓子さん(深津中PTA)、前野京子さん(高木小PTA)に話し合ってもらいました。

元田係長 子どもたちは携帯電話やインターネットをどう使っていますか。  
 富田さん 子どもにネットでのいろいろな情報を調べてもらい助かっています。一方で、携帯で有害サイトに簡単にアクセスできるようなので、気をつけなければと思います。

玉水さん 長女にプリペイド式携帯電話を持たせていますが、固定電話と違って、携帯はいつだれとどんな話をしているのかわかりません。メールをチェックするわけにもいきません。

前野さん 携帯は悪いものではないと思いますが、絶対に必要でしょうか。わが家はテレホンカードで十分です。

元田係長 携帯やネットには落とし穴があります。大人がそうした危険を十分に説明することが欠かせません。

富田さん 長男は中学三年ですが、周囲の多くが携帯を持っていてと聞いています。でも、みんなが持っているから、はあまりに安易。分別つくまでは持たせません。子どもを守る責任は親にあります。

玉水さん 遅い時間にかたり、メールを送るのはやめよう、と子どもと話し合っています。

前野さん 自殺サイトとかネットの危険な部分が目立っていますが、子どもたちの心が満たされていれないのでは。大人が子どもを温かく見守ることが大切だと痛感します。